

はしもと

〈病院理念〉

地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり

〈基本方針〉

～心のかよう病院を目指して～

患者様のため、まごころの医療を目指します
地域の皆様から信頼される病院づくりに努めます
常に新しく良質な医療ができるように心がけます
皆様の健康増進、疾病予防のお役に立ちたいと願っております

〈病院運営のコンセプト〉

1. 気づきの医療
2. わかりやすさ



回復期リハビリテーション病棟

～ 作業療法士の回復期リハビリテーションでの役割り ～

①日常生活に対するリハビリ ②福祉用具の選定 ③自助具の提供 ④装具の提供 ⑤身体機能面に対するリハビリなどがあります。その中で脳卒中を発症された方の多くは腕に上手く力が入らなかったり痛みや硬くなってしまふなどの症状が出ます。それにより、着替えや歩くなどの日常生活を阻害してしまう場合があります。今回はそのような場面で使用する上肢装具をいくつか紹介します。



～ 装具とは ～ 自立したADLを目指すために独特の形状デザインやベルト構造により、自己装着が可能です。脳卒中発症後の早期段階で、肩関節亜脱臼や疼痛予防の目的で使用するだけでなく、社会復帰後の日常生活においても使用することができます。

「アームスリング」

簡単に装着することができ、腕の重さを支えることができます。



「オモニューレクサ」

肩の重さを支える事で歩きやすくなることも期待できます。



「エアースプリント」

空気の流れで腕を伸ばす事で拘縮予防や痛みの軽減に繋がります。



～ 家族会の開催（担当：言語聴覚士） ～

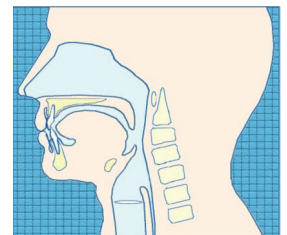
●● 家族会 ●●
回復期リハビリテーション病棟に入院中の患者様、ご家族様に対し、テーマに沿った講演を行っております。今回は言語聴覚士（ST）が担当です。新型コロナウイルス感染症対策のためこの紙面を借りて「**とろみ**」の必要性についてお伝えします。

●● 飲み込む（嚥下） ●●
飲み込みは「飲み込むもの」の流れに「嚥下」のタイミングを合わせることで成立します。脳梗塞による麻痺やのどの筋力・感覚が低下する事により、このタイミングがずれ「誤嚥」が生じてしまいます。とりわけ、のどへの流れが速く（早く）、タイミングがとりにくいものNO.1が水分（お茶、ジュース、酒、汁、果汁など）です。

●● とろみ ●●
とろみ剤は、水分のまとまりを良くして、さらに流れる速さをゆっくりにする性質があります。そのため飲み込みのタイミングが合わせやすくなり、誤嚥しにくくなります。ただ、とろみ剤をうまく使わないとダマダマができたり、上はサラサラ、下はボタボタのようにコップの中で不均一になることもあります。各とろみ剤の分量や混ぜ方をよく確認してから使うようにしてみてください。



写真：2019年度開催風景



とろみのつけ方の手順 ※当院で使用しているとろみ剤の使用法です。

① 飲み物をコップに入れる



② とろみ剤を入れながら20～30回かき混ぜる



③ 5～10分置くととろみが安定する



とろみの強さは患者様によって調整します。
お気軽に担当の言語聴覚士にお尋ねください。



認知症治療病棟

入院集団精神療法について

当院の認知症治療病棟では公認心理師が主となり入院集団精神療法を実施しています。

入院集団精神療法とは、患者様がお互いに昔の話や自分の過去について話をする事で、情緒の安定を促したり、自分に対する自信を高め、穏やかな生活を送ることができるようにするためのものです。

認知症の方は新しいことを学習することが困難となり、最近のことを忘れやすくなります。また社会的な関心が乏しくなったり、複雑な行為を行うことが困難となったりしていきます。そして今までできていたことをうまく行うことができなくなることで、不安になったり自信を失ってしまったりされる方もおられます。

しかしながら、新しい事柄に関する記憶と比べて昔の記憶はよく覚えておられることが多く、過去の出来事や若かった頃の自分自身のことを思い出していただくことにより、気持ちが落ちついたり自分の存在意義を再認識して自信を回復したりする効果が期待できるとされています。

実施の際には“昔好きだった歌”や“子供の頃のおやつ”など事前にテーマを設定し、プライバシーに配慮しながら話を無理強いするようなことはせず楽しい雰囲気で行うことを心掛けて、子供の頃の楽しかった記憶や懐かしい記憶をお伺いしていきます。



外来・放射線部

まだ終わらない新型コロナウイルス感染症 ～ 感染対策として ～

手洗い、マスクの着用が重要です！環境を清潔にして、換気をし集団感染を防ぎましょう。下図のように皆様がよく触る場所も感染源となります。**消毒用アルコールや次亜塩素酸ナトリウムを希釈したもの**などを使ってこまめに拭きとりましょう。

飛沫感染

感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つば）などと一緒にウイルスが放出され、他者がそのウイルスを口や、鼻から吸い込んで感染します。



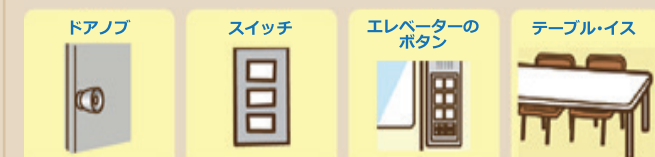
接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付着します。別の人がある物を触るとウイルスが付着し、その手で口や鼻を触って粘膜から感染します。

トイレの清掃・除菌すべき箇所



人の手がよく触れる場所



薬剤部

～服用中の薬、増えていませんか？～

年齢を重ねるにつれ、服用中の薬の種類が増えてきたと感じている方は少なくないと思います。厚生省が2018年に行った調査では、75歳以上の患者様のうち薬局で月に5種類以上お薬を受け取っている方は40%、7種類以上の方は25%にのぼりました。

高齢者は複数の疾患をお持ちの方も多く、服用するお薬も多くなる傾向にあります。一方で、加齢に伴い肝臓や腎臓の働きが衰えると、お薬を分解したり体の外に排出したりするのに時間がかかるようになり、作用や副作用に変化が起こることがあります。また、薬が多すぎてきちんとお薬が飲めなくなることもあります。薬を多く飲むことが必ずしも有害事象に繋がるわけではありませんが、6種類以上で有害事象の発生頻度が上昇するという報告もあります。そうして有害事象に繋がってしまった状態の事を“ポリファーマシー”と呼びます。



～なぜお薬が増えるの？～

病気や体調不良などで複数の医療機関を受診し、それぞれでお薬が処方されることで処方されているお薬全体の把握が出来なくなり、似たような効き目のお薬が処方されることがあります。また、お薬による体調不良で受診し、その症状に対して更にお薬が追加されるケースもあります。

～ポリファーマシーを減らすには？～

飲んでいるお薬を、かかりつけ医師・薬剤師に知らせておくことが大切です。具体的には、

- ・お薬手帳を1冊持ち、医療機関受診の際に見せる（医療機関ごとに分けず、全てまとめる）
- ・お薬が変わった、追加された際は、体調に変化がないか注意しておく
- ・お薬は勝手にやめたり減らしたりせず、かかりつけ医師や薬剤師に相談する
- ・飲んでいるお薬のことを、医師、薬剤師、家族等の支援者に伝えておく



お薬が飲みづらい、多い気がする、など気になる点がありましたら、かかりつけ医師や薬剤師にお気軽にご相談ください。



栄養部

イベント食のご紹介

毎月1日：お寿司の日 毎月16日：赤飯の日 その他季節に応じた行事食を提供しています。



お寿司の日



エビ散らし寿司 吉野汁
ブリの塩焼き 炊き合せ
イチゴババロア



赤飯の日（お誕生日膳）



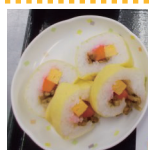
赤飯 お刺身 赤出し汁
里芋のそぼろあん
ふりかけ和え



節分



巻き寿司 清汁
いわしの塩焼き
炊き合せ 節分豆



様々な食事形態の方に合わせて内容を変更して提供しています。

次回をお楽しみに！



通所リハビリテーションセンターはしもと

楽しく身体をきたえたい！歩く機会を増やしたい！

分かってはいるけど1人では運動できない、する気になれないものですよ…。

そんな時には「通所リハビリテーションセンターはしもと」で一緒にリフレッシュしましょう！！



通所リハビリ利用の目的

- ★ しっかりリハビリをして、身体機能を維持・向上させる
- ★ お出かけやもの作りを通して社会や人との交流を続ける



当センターは、**個別リハビリ** **お出かけリハビリ・もの作り** を中心に、身体をしっかりと鍛えながら社会や人と交流し、『楽しくリハビリ』ができる場所（リハビリ特化型デイケア）です。

1.5時間コース

- 9:30～11:30
- 短時間でしっかりリハビリをしたい方



午前半日コース

- 9:00～12:10
- リハビリも人との交流も楽しみたい方
- 昼食付き

午後半日コース

- 13:00～16:10
- 午前は家でゆっくり、午後からリハビリも人との交流も楽しみたい方
- おやつ付き

1日コース

- 9:30～15:40
- 1日かけてゆっくりとリハビリも人との交流も楽しみたい方
- 昼食、入浴、おやつ付き



リハビリテーション内容

オーダーメイドリハビリ（20分または40分程度）

理学療法士、作業療法士がそれぞれの専門性を活かし、お一人お一人に合った「起き上がり」「立ち上がり」などの基礎的な動作訓練や、「歩行訓練」「トイレ動作」「入浴動作」などの応用的な動作訓練を行います。

「自宅での生活」に近づいたリハビリテーションを目指しています。生活の中で困ったこと「これだけは続けたい！」といった希望などをお聞かせいただき、リハビリテーションプランを立案しています。



パワーリハビリテーション

プーリー（滑車を用いた運動機器）やリカンベントバイク（背もたれ付きエアロバイク）などを用いて、お一人お一人の体力に合わせたトレーニングを行っています。

集団体操

介護福祉士を中心として、ゴムバンドや棒などを使った筋力トレーニングを、午前と午後の1日2回、1時間30分程度行っています。

また、月に一度の体力測定で、日ごろの成果を確認します。肺の活性化や口腔まわりの筋力向上を図るため、音読や歌唱を行っています。他に、計算・漢字・音読などを行い、脳の活性化を図っています。



口の体操（嚥下体操）

食事前に20分程度の嚥下体操を行っています。口腔や口唇の動きを良くし誤嚥を防ぎ食事をスムーズに摂取できるように努めています。



地域連携部

～ 事前面談について ～

地域連携部では、安心してご入院いただくために入院前の事前面談に取り組んでおります。
お伺いする内容で30分程度、お伝えする内容で30分程度いただきます。ご協力をお願い致します。



【お伺いする内容】	入院前の生活状況	既往歴	リハビリ目標
【お伝えする内容】	入院生活について	入院の準備物	入院手続きについて
	感染症対策	予約制面会について	入院予定・移動方法

○ 当院での回復期リハビリテーション病棟の疾患の種類と入院期間について ○

① 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術	150日
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の脊髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	180日
② 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折	90日
③ 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後	90日
④ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後	60日
⑤ 股関節または膝関節の置換術後の状態	90日

移動も安心のサービス

転院の際の無料送迎をしております。
ご希望の方はお気軽にお申し出ください。



入院相談はお気軽にご連絡ください！

地域連携部 窓口：大西 宏美 電話：0875-63-3552（直通）
認知症治療病棟への入院相談もお伺いしております。
お気軽にご連絡ください。



学会発表

新型コロナウイルス感染症の影響により、学会などの催しも現地での開催が困難となっている昨今ですが、Web開催という形で学会参加・発表し、自己研鑽に努めています。

第29回 日本慢性期医療学会 会期：2021年10月14日（木）～15日（金） Web開催

- 福田 真也（理学療法士）「慢性期脳卒中患者の経口摂取獲得にはバランス能力と2型糖尿病が関与する」
- 木田 亮輔（理学療法士）「疾患別にみた気温と転倒の関係性について」
- 綾 聖加（作業療法士）「家庭での役割再獲得の為調理練習に取り組んだ一例」
- 白川 卓（言語聴覚士）「COVID-19感染症の院内感染の経過と患者への影響」
- 宮本 明友（看護師）「新型コロナウイルス（COVID-19）の当院の栄養管理の取り組みについて」
- 宮本 和紀（看護師）「転倒・転落0を目指して～簡易エルゴメーターを使用した運動療法～」
- 草野 奈美（公認心理師）「認知症治療病棟における認知機能評価のためのMMSEの実施手順について」



第9回 慢性期リハビリテーション学会 会期：2022年2月3日（木）～4日（金） Web開催

- 福田 真也（理学療法士）「ADL最重度介助を要する脳卒中患者の改善に関わる因子の検討」
- 松本 猛（理学療法士）「コロナ禍での退院支援～当院での取り組み～」
- 中村 健士郎（理学療法士）「訪問リハビリテーションにおける短期終了の関連因子の検討」
- 森藤 拓也（作業療法士）「超高齢者の自宅復帰に関わる因子の検討」
- 澁谷 由香（准看護師）「感染対策により他者との関りが減少した患者への個別ケアによって 行動心理症状が改善した症例」



吉尾先生オンライン講座

2021年12月2日～20日までの期間で橋本病院職員を対象に、千里リハビリテーション病院 副院長 理学療法士 吉尾雅春先生のオンライン講座が6回シリーズで開催されました。延べ679人のセラピスト、看護師が参加しました。

<テーマ> 「脳卒中患者に取り組むために必要な脳の知識」

- ① 脳画像をみるポイント：脳画像のみから、機能局在的にみた脳、スライスに含まれる部位、主な連絡繊維
- ② 脳のシステム基本編：脳のシステム、小脳ネットワーク、基底核ネットワーク
- ③ 視床をきわめる：視床の概観、視床のHub機能とFilter機能、背側視床と連絡と機能
- ④ 小脳系をきわめる：小脳の解剖、大脳小脳系、脊髄小脳。前庭小脳系、小脳系全般
- ⑤ 視覚・聴覚・言語系：視覚系、聴覚系、言語系
- ⑥ 姿勢制御と歩行：人間の姿勢制御の究極的な目的、歩行における視床・頭頂葉の役割
ヒトは直立二足動物である、姿勢制御システムの障害と歩行



患者様の症状や予後予測などを、脳画像を元に紐解き理解ができれば、随分と関わり方が変わると思います。まだまだ理解不足のことがあります、これからはしっかりと勉強していきたいと思えます。

体力測定

体力測定のお手伝いに行ってきました！

開催日：2021年12月10日

場 所：財田町B&G海洋センター

財田町の老人会の方々への体力測定にお手伝いとして参加させていただきました。



毎年運動会を開催されていたそうですが、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年は開催できなかったため、今年は体力測定という形で開催され、70名の方が参加されました。

項目はTUG、片脚立位、立ち上がりテスト、FRT、握力、2ステップテスト、10m歩行テストの測定でした。自分の記録が基準値に対してどのくらいの位置にあるのかを確認し、どの部分が弱っているかを知り、それに対して鍛えようと意気込む方が多くいらっしゃいました。

職員募集のお知らせ

募集

看護師・准看護師
介護福祉士・介護職

☆入職支度金制度あり☆



まずは、病院見学にお越し下さい！
給与等詳細は、当院ホームページでも閲覧できます。

<http://www.wafukai-hashimoto.jp>

TEL 0875-63-3311 (人事担当：家野)



医療法人社団和風会 橋本病院
〒768-0103
香川県三豊市山本町財田西902番地1

TEL：0875-63-3311

FAX：0875-63-2651

入院相談直通電話：0875-63-3552

E-mail：hashimoto-hp@wafukai-hashimoto.jp

HP：http://www.wafukai-hashimoto.jp

発行元：橋本病院 広報委員会

医 回復期リハビリテーション病棟 89床
療 認知症治療病棟 67床

介
護

橋本病院指定居宅介護支援事業所
通所リハビリテーションセンターはしもと
訪問リハビリテーションセンターはしもと

